

「身近な科学の不思議を体験しよう」を開催しました

平成23年11月16日と30日の2日間、高松聖ヤコブ幼稚園園長補佐の水野忠彦さんを講師にお迎えし、講座を開催しました。

私たちの身の回りには、科学の不思議を体験する機会が多々あり、場合によっては、危険に身をさらされる場合もあります。しかし、原理と法則を理解していれば、危険から逃れることもできます。皆で楽しく体験したり実験したりしながら、気軽に物理の扉を開き学ぶ大人向けの講座となりました。第1回目は、「空気や水の流れや流体の渦について学ぼう」をテーマに盛り沢山の実験を通して原理や法則を学んでいきました。



最初に、電気掃除機の高速モーター回転による排出空気の流れをピンポン球、紙風船、ゴム風船を使って、それらの動きから確認していきました。次に、私達の身近にある事故の事例から流体（空気）の流れと圧力の関係を改めて気づかされました。最後は、「空気や液体の流れで、流速の速いところでは圧力が小さくなり、流速の遅いところでは、圧力が大きくなる」という『ベルヌーイの定理』のとおりになるのか、ペアで結果を予想しながら、<ろうと>や<ティッシュペーパー>を使った実験をして1回目が終了しました。

第2回目は、「おもちゃの物理を作ってみよう」をテーマに、水野先生から童心にもどって楽しくとおっしゃられたとおり、受講生の皆さんが楽しそうに受講されていました。糸電話のデモ実験から始まりました。<ブンブンみんみんゼミ>では、振り回すスピードによって出る音の違いや音が出る原理について説明を熱心に聞きながら、実際に振り回して音を出していました。



他にも、<紙飛行機>の折り方では、お互いに教え合い、<ゴム動力を使ったカメさん>では、お部屋の空いたスペースを利用して試し動かしてみても、ゴムや紐の巻き方を各自で工夫されていました。

<竹とんぼ>は、羽根となる竹をライターで熱し、ひねりを左右対称になるよう加えてから、紙やすりで少しずつ削るのが難しく、苦戦しながら作られていました。

「科学」や「物理」と聞くと、どうしても難しそうなイメージを持ってしまいがちですが、私達の身近な物事を通してなら楽しく学べることがわかった講座でした。